

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	交流・環境	28年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成	成果	コスト			
事務事業名	中川運河水質改善事業	継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921 環境担当、工事課
目的	対象(誰・何を)	中川運河			事業 期間	平成26~31年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	良好な水環境を創出します。				
概要	整備場所:名古屋市中区運河町、中区西日置 内容・規模:中川運河の水循環を促進するため、松重ポンプ所の改修、露橋水処理センターからの高度処理水の活用(吐出管設置)、並びに堀止における深場の埋戻し(覆砂)を実施します。 全体工事費:18.1億円 事業手法:社会資本整備総合交付金事業				根拠 法令等	
事業着手時点の 評価	中川運河の水循環を促進し、市民等が水辺を不快なく散歩できる水環境の創出を図ります。				実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
29年度の実施予定	名古屋市露橋水処理センターから排水される高度処理水の吐出管を完成します。 また、松重ポンプ所改修に向けて、水循環を確保するための排水管切り替え及び既存建物の撤去を行います。				関連 シート	中川運河再生計画の 推進

2 DO(実施)

29年度に実施した 内容・結果	名古屋市露橋水処理センターから排水される高度処理水の吐出管を完成しました。 また、松重ポンプ所改修に向けて、既存建物の撤去に着手しました。					
コスト	単位	27年度	28年度	29年度	合計(平成26年度~)	備考(費用の増減理由等)
工事費	千円	32,260	87,331	11,802	148,889	平成29年度に予定していた排水管切り替えが入札不調により未実施となり、平成30年度に繰越して実施するため、工事費が減少しています。
人件費	千円	6,600	7,167	4,779	18,228	
合計	千円	38,860	94,498	16,581	167,117	

3 CHECK(検証)

指標名		27年度	28年度	29年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業の進捗状況 (全7工程)	目標	2	3	4	5(累計)		以下の項目のうち完了した工程数を合計します。 【①調査 ②事業採択 ③設計(松重ポンプ所改修) ④吐出管設置(高度処理水活用) ⑤設計(堀止深場埋戻し(覆砂)) ⑥堀止深場埋戻し(覆砂)整備 ⑦松重ポンプ所改修】	
	実績	2	3	4				
(進行管理型)	事業進捗状況(29年度)				順調・やや遅れ・遅れ			
関係機関との協議 (回)	目標	-	-	-	-		協議の回数を判断の指数とします。	
	実績	12	18	32				
(単年度管理型)	事業進捗状況(29年度)				-			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	中川運河の水循環を促進するため整備を進めており、高度処理水の吐出管は完成し、松重ポンプ所においては、平成29年度に予定していた排水管切り替えは入札不調により未実施となったものの、平成30年度の整備とあわせて実施するため順調に進捗しております。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	事業着手時に比べ必要性が低下していないか?	○ 港湾管理者として、中川運河再生計画に基づき松重ポンプ所の改修等を行い、水質改善に取り組んでいく必要があります。						
	事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○ 中川運河の良好な水環境の創出は、上位施策である「うるおいと魅力のある港湾空間の形成」に貢献すると考えております。						
	期待どおりの成果が得られているか?	— 本事業は施工中であるため、成果の評価は対象としておりません。						
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 関係行政機関、学識者を交えた委員会により経済性を踏まえて策定した施策であり、今後も事業実施に向けコスト削減に努めていきます。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	30年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
延伸	維持	維持	実施設計の結果により事業全体の工程を見直し、施工時期を延伸する必要があるため。 * 今回の評価にて、事業完了年度を延伸(31→34年度)
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			30年度以降の取組
中川運河水質改善施策の実施に向けて、事業期間を延伸するとともに、関係者と調整を図りながら、事業を進捗させる必要があります。			平成29年度に予定していた排水管の切り替えを確実に実行するとともに、水質改善事業については、引き続き、関係者と調整を行い、着実に事業を進めていきます。